

令和4年 8月 8日

東員町議会

議長 三宅耕三様

東員町議会 総務建設常任委員会

委員（議員）片松雅弘

## 研 修 報 告 書

|          |                                             |
|----------|---------------------------------------------|
| 研修期間     | <u>令和 4 年 8 月 2 日 ～ 8 月 3 日</u><br>【 2 日間 】 |
| 研修（視察）先  | 近江八幡市役所・京都産業大学                              |
| 目的（テーマ等） | 地下水の活用・トリックアート                              |
| 資料添付の有無  | 無                                           |

※ 研修概要、内容、所感などは、次ページにご記入ください。

研修概要、内容、所感

1 日目は、滋賀県の近江八幡市役所に非常時の地下水の活用をテーマに研修におきました。近江八幡総合政策部まちづくり協働課は、1995年に発生した阪神淡路大震災により地域の避難所確保が必須だとの認識からコミュニティセンターと小学校の体育館と教室を避難所として使用できるように一体的に防災機能の強化のために整備しています。学校区ごとのエリアで順次整備していくとの事で、今回は金田コミュニティエリアを視察しました。避難想定人数は学区の約10%の1,500人で体育館及び小学校の教室やコミュニティセンターの和室等を避難所としています。

その為に生活に必要な最低限の飲料水を確保（3L/人・日×1,500人×3日＝13,500L）水源は地下水でろ過システムを採用しています。非常時にも強く、地震等で上水道が寸断された場合でも水ライフラインを確保することができます。

また学校区ごとに小学校・コミュニティセンター・放課後児童クラブなどエリア整備されています。防災の拠点としても、まちづくりの拠点としても活用できます。下水道が破損した際にも排水貯溜槽も完備し太陽光発電・発電機3日分の軽油を溜める地下タンクなども完備しています。非常時の水を確保したエリア整備は地震などの非常時やまちづくりには有効的で東員町も、ぜひ見習うべきと思います。

2 日目は交通安全対策の一環として路面標示のトリックアートを行った京都産業大学に研修にいきました。トリックアートとは路面標示を浮き出ているように見せかけ、ドライバーに速度低減・安全確認を促すものです。全交通事故に占める高齢運転者交通事故の割合が増加していることから京都府警が各大学ゼミ対抗で、ポリス&カレッジで2020年にテーマ「信号機のない横断歩道における歩行者優先施策」で最優秀賞に京都産業大学、高畠ゼミの学生提案の横断歩道トリックアート、目の錯覚を利用して立体的に表示し運転手に注意を促すもので、令和3年8月に亀岡市内の千代川小学校の通学路に設置されました。

東員町でも通学路の安全対策はとても緊急度の高いテーマです。横断歩道だけではなく通学時間帯での住宅地内の通り抜けや速度超過など課題もいっぱいです。

そんな課題をトリックアートで交通安全につなげたいと思いました。

交通規制表示である横断歩道に関しても道路交通法など法定外で条例も必要なしとのことです。ですから自治体で施工できるとのことですので、ぜひ東員町でも行いたいと思います。ぜひ三重県で一番初めにやってみたい。

また、高畠ゼミでは、地方自治体と連携して地域のテーマに取り組んで、定住促進や農作物のブランド化・名産品の発掘など大学生の社会参画で柔軟なアイデアで地域貢献しています。このような若い力のアイデアが地域に生かされると素晴らしいと思います。東員町でもこのような柔軟なアイデアを学生さんと一緒にできるようにしたいと考えます。2日間を通して実のある研修でした。